

資料1 環境教育等の取組事例

学校や事業者、地域団体・市民活動団体、市町村など、様々な主体が、「環境教育」「環境保全活動」「環境保全の意欲の増進」「協働取組」に取り組んでいる事例を掲載しています。今後の取組の参考としてください。

<取組事例の一覧・目次>

事例1	地域とともに学ぶ環境教育推進事業における実践	資2
事例2	下川町における学校での森林環境教育プログラムの実践	資3
事例3	ふるさと再発見「にんにく沢探検隊が行く！」	資3
事例4	Action for Hokkaido (新しい寄付のかたち)	資4
事例5	本業を生かした企業の環境教育実践プロジェクト	資5
事例6	子どものための自然学校「イエティくらぶ」	資6
事例7	「コミもり (コミュニティ&森)」によるコミュニティ再生	資7
事例8	風蓮湖環境対策プロジェクト	資7
事例9	大沼国際ワークキャンプ	資8
事例10	さっぽろ環境かるた「よくな～るかるた」の製作と実践	資9
事例11	買い物ゲームの製作とゲームの実施	資9
事例12	北海道自然体験活動指導者交流ミーティング	資10
事例13	うらほろスタイル「ふるさとづくり計画」の取組	資11
事例14	「環境中間支援会議・北海道」の設立と実践	資12
事例15	市民の企画提案による協働のまちづくり事業	資13
事例16	環境まちづくりリーダー制度とエコキッズ・プログラム	資14
事例17	ハサンベツ里山20年計画とふるさと体験教育	資15
事例18	ネイパル・アース・キッズ	資16

＜事例1／学校等の取組＞

【環境教育】【協働取組】

地域とともに学ぶ環境教育推進事業における実践

■取組の特色・概要

○地域の自然環境や地域人材を活用した体験的な活動を通して、児童生徒の環境への興味・関心を高め、地域の自然を守る意欲、主体的に環境に配慮して行動する態度を育成する。

■実践例（壮警町立壮警中学校）

洞爺湖有珠山ジオパーク等を活用した地域学習を通して、生徒の防災意識を高めるとともに、地域人材を活用し、地域について理解を深める取組を実施。

1. 地域学習を通して、生徒の防災意識を高める総合的な学習の時間の工夫

○まるごとジオパーク（3年生）

生徒の防災意識を高めるため、総合的な学習の時間の「地域学習」において、地域の火山や自然環境、過去の災害の状況などの調べ学習や発表など、生徒が自ら防災について考える活動を実施。

○噴火を想定した避難訓練

噴火発生時から自分の身を守るための知識を身に付けることを目的として、火山の噴火を想定した避難訓練を行い、どのように避難先まで移動するかなど、具体的な対応の手順について確認。



(上:まるごとジオパーク) (下:避難訓練)

2. 地域人材を活用し、地域について理解を深める体験的な学習活動の工夫

○まるごと観光（2年生）

壮警町の観光スポットを現地調査し、観光地で働いている人にインタビューするなどの体験的な学習活動を実施。

○まるごとりんご（1年生）

果樹園の方の協力のもと、地域の土地や気候を生かしたりんご栽培を体験。収穫したりんごでパンづくりなどの加工実習を行い、交通安全運動期間にドライバーに手渡すなどの体験活動を実施。

○職場訪問・職業体験学習

自然災害と向き合いながら、地域を愛し、支えてきた人々と直接触れ合い、地域についての理解を深めるとともに、社会の中でどう生きていくかを考える学習の実施。



(上:まるごとりんご) (下:職業体験学習)

3. 北海道環境学習フェアinどうけんでの発表

北海道立教育研究所で開催された「北海道環境学習フェア」に参加し、自校の取組を発表するとともに、他校の実践に触れることにより、自分たちの住む壮警町のよさを改めて実感する学習を実施。



(環境学習フェアでの取組発表)

<事例 2 / 学校、市町村の取組>

【環境教育】

下川町における学校での森林環境教育プログラムの実践

■取組の特色・概要

○町の地域資源である「森林」の多様な役割を生かし、地域の森林林業について、幼児センターから高校まで一貫した、体系的で理解しやすい環境教育プログラムを地域のNPO法人を活用して展開。教員の森林環境教育への理解へもつながっている。

■プログラムの実践例

段 階		テーマ、展開内容
幼児期 (幼児センター)		森のあそび(落ち葉・枝拾い、焼きいも、秋の宝探し、冬の森探検、尻滑りなど)
小学校	1年生	絵本の読み聞かせとお気に入りの木を見つけよう
	2年生	森の生き物さがし
	3年生	樹木図鑑づくり
	4年生	間伐体験と森林調査
	5年生	下川町植樹祭への参加
	6年生	マイはし作り
中学校	1年生	アイヌ楽器「トンコリ」音楽会
	2年生	アイヌ文化について学ぶ
	3年生	下川町のアイヌ語地名
高等学校	1年生	間伐体験と蒸留体験
	2年生	森林の経済価値測定
	3年生	下川町植樹祭への参加



(上:幼児センターの森あそび) (中:中学生のアイヌ文化について学ぶ) (下:高校生の間伐体験)

<事例 3 / 学校等の取組>

【環境教育】

ふるさと再発見「にんにく沢探検隊が行く！」

■実践例(函館市立中の沢小学校)

○総合的な学習の時間において、地域のNPO法人と連携して環境学習を行い、地域の自然の素晴らしさを児童が体験。
○学年毎の体験内容を教員とNPO法人で数度にわたり事前打ち合わせを行い、教員の資質向上を図る。NPO法人には、活動の普及と学習成果の発表の場ともなっている。

学 年	展 開 内 容
3年生	河畔林と水生生物の観察、沢登り、播種体験
4年生	河畔林と水生生物の観察、沢登り、播種体験
5年生	苗木の堀出しと植苗体験
6年生	苗木の堀出しと植苗体験、河口観察



(上:河畔林観察、丸太一本橋を渡って) (下:河畔林再生区間に植苗)

<事例 4 / 事業所等の取組>

【協働取組】

Action for Hokkaido (新しい寄付のかたち)

■取組の特色・概要

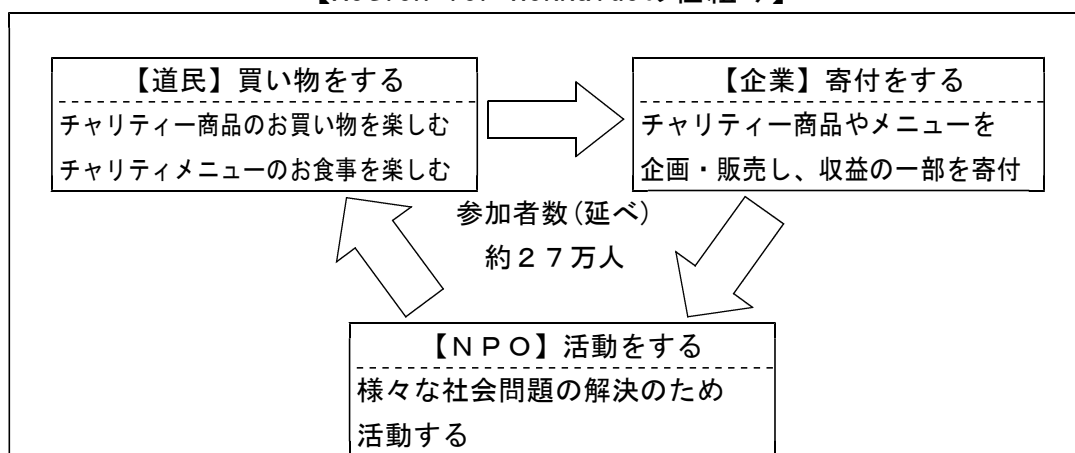
○複数事業所が集まり期間限定でチャリティー商品やメニューを販売し、その商品を通じ、北海道にある様々な社会課題に道民が関心を持つ機会を創出。

○道民と北海道にゆかりのある企業と北海道で頑張る市民活動団体を結ぶ、道民も取り込んだ協働取組の新たな取組み（地域循環型の顧客関係管理）。

■実践例

NPO法人「北海道NPOファンド」と公益財団法人「北海道環境財団」の仲介の下、平成24年度はチャリティー商品の参加企業14社、チャリティメニューの参加飲食店36店舗が参加し実施（2012年9月8日～10月31日）。参加者数は延27万2,748人、合計寄付金額は70万円にのぼり、環境や福祉などの様々な社会問題の解決のために活動するNPOへ寄付されました。

【Action for Hokkaidoの仕組み】



* 協賛企業・団体、賛同人

プロジェクトのPR、チラシ配布・設置やチャリティー商品の取扱いなど



(チャリティーイベント)



(リフレットと活動報告ペーパー)



(道庁での寄付金贈呈式)

<事例5 / 事業所の取組>

【環境保全活動】【環境教育】

本業を生かした企業の環境教育実践プロジェクト

■取組の特色・概要

○本業の飲食業を生かして自社フィールドを提供し、学校と連携して環境教育を実施。対象を子どもに限らず、店舗従業員や来客者へも活動を広げ、地域と一体となって環境保全活動、環境教育に努めている。

■実践例

1. ふゆみずたんぼプロジェクト

ふゆみずたんぼ（冬や初春にも水を張り、田んぼの湿地機能を向上させて多くの生きものたちを育てることができる農法の1つ）による、農薬と化学肥料に頼らないお米作りを通して、「①豊かな生態系と安全な食」「②稲作と文化」への理解を深める体験と学習の場を提供。

【プロジェクトの1年間の実践例】

- 3月 種もみの準備
- 4月 田んぼの準備
- 5月 苗作り（種まき体験）
- 6月 田植え（田植え体験）
- 7・8月 生きもの調査（カエルとり体験等）
- 9月 稲刈（稲刈り体験）
- 10月 脱穀（脱穀・粃摺り体験）
- 12月 お正月飾り（稲穂と稲わらのお正月飾り講習会）



(左：田植え体験)

(右：稲刈り体験)

2. なたねプロジェクト

なたねなどの油糧作物を中心に、食糧・肥料・燃料の地産地消と自給自足を目指して地域の中で資源が循環活用されることで、食を取り巻く様々な問題に多角的な効果を上げることが目的としている。使用済み廃食用油の回収など、地域と一体となった環境保全活動にも取り組み、また、本プロジェクトを通じた、学校での総合的な学習の時間への協力など、環境教育の支援を行っている。

【1年を通じた、総合的な学習の時間への協力】

- ・種まき：土に筋をつけ、菜の花の種まきを体験
- ・畑の生きもの調査：アブラ科に生息するモンシロチョウやカメ等を観察し、生態系の形成を学習
- ・収穫：刈り取り、脱穀、籾と種の選別などの体験
- ・工場見学：搾油やバイオディーゼル(BDF)燃料を精製する燃料化施設、BDF利用車を見学
- ・調理実習：収穫したなたね油を使用した調理実習

(右上左側：種まき体験) (右上右側：搾油体験) (右下：生きもの調査)



<プロジェクトのHPアドレス (株式会社アレフHP)>

「<http://www.aleph-inc.co.jp/cn34/>」

＜事例6／NPO法人の取組＞

【環境教育】

子どものための自然学校「イエティくらぶ」

■取組の特色・概要

- 子どもを対象にした自然体験活動を月例と長期休業に合わせて通年で企画・提供。
- 専門性の高さや地域組織を生かし、未就学児、小学校低学年・高学年、中学生といった発達段階に応じ、地域の環境特性を生かした環境教育プログラムを有償で実施。

■実践例（イエティくらぶ東川校）

1. お外で子育てイエティーズ（3歳以上から未就学児の親子を対象）

保護者が苦手とする生き物や安全管理の難しい川遊びなどを組み合わせて実施。

月	プログラム名	活動場所
5月	ののはなようちえん	キトウシ森林公園
6月	むしのようちえん	キトウシ森林公園
7月	かわのようちえん	ノカナン川
9月	みのりのようちえん	キトウシ森林公園
10月	いなわらようちえん	村中農園(東川町)
11月	おいしいたきびようちえん	キトウシ森林公園
1月	あさひかわイエティーズ	神楽岡公園(旭川市)
2月	おしろようちえん	キトウシ森林公園
3月	おしりすべりようちえん	キトウシ森林公園



2. はっちゃけ隊（小学生を対象）

(上:どんぐり拾い)(下:かわあそび)

自然や人との関わり方、道具の使い方や身の回りのことを行う技術向上を目指し実施。

月	プログラム名	活動場所
5月	はっちゃけ森たんけん	キトウシ森林公園
6月	陸・水・生き物探しの旅	キトウシ森林公園
6・7月	むかわラフトキャンプ	むかわ町(1泊)
7月	はっちゃけ川あそび	ノカナン川
9月	まっくらな森へ☆ナイトハイク	キトウシ森林公園
10月	落ち葉プールとおいしい秋	キトウシ森林公園
12月	先取り☆雪遊びツアー	旭岳温泉街
2月	ジャンピングソリ	21世紀の森(東旭川)
3月	大岩山☆最後の雪遊び	大岩山(東旭川)



3. 森つく（小学校高学年を対象）

(上:昆虫図鑑作り)(下:落ち葉プール)

東川町キトウシ森林公園を活動場所に森と生活のつながりを感じる活動を実施。

月	プログラム名	月	プログラム名
5月	薪割りとおこし	10月	森のレスキュー隊
6月	みんなでツリテックをつくろう	12月	クリスマスリースづくり
8月	炭焼きキャンプ	1月	天然アロマフレグランスづくり
9月	ピザとジャムづくり	2月	真冬のナイトハイク

＜イエティくらぶHPアドレス（NPO法人ねおすHP）＞「http://www.neos.gr.jp/npo_1_kojin/1_yeti.html」

＜事例7／NPO法人の取組＞

【環境保全活動】

「コミもり（コミュニティ&森）」によるコミュニティ再生

■取組の特色・概要

○森林所有者と協定を結び、ボランティアによる森林整備をすすめ、多様な主体が森の中に入り、「遊んでいたら森の手入れをしていた」というプログラムを開発・提供。
○コミュニティ再生のための良き手法として森林整備という、普通の森づくり活動とは逆の発想での森へのアプローチ。

■実践例

○普段の生活では出会うことのない異世代、他セクターの人同士が出会い、協働し、会話を交わし、森のお手入れを展開し、多様な生き物が住む森を再生・維持する。

【コミもりのポイント】

- ①子どもでも、親でも、高齢者でも、障がい者でも、だれでも気軽に簡単に
- ②人それぞれの目的にあった楽しい森のお手入れ
- ③森のお手入れは、気の長い共同作業であり、つながる楽しさが生まれる

・森づくり×銭湯 ありがとうチケットプロジェクト

森林ボランティアによる除間伐作業や子どもたちによる秘密基地作りといったプログラムを通して搬出された枯損木や間伐材を薪にしたものを、地域の銭湯に持っていき、燃料として使ってもらい、薪作りに関わってくれた方に還元する。



(森林ボランティアの除間伐作業)



(お風呂チケットの利用)

＜事例8／地域団体等の取組＞

【環境保全活動】【協働取組】

風蓮湖環境対策プロジェクト

■取組の特色・概要

○農地からの土壌流出や家畜糞尿を原因とする河川や湖沼の汚染といった、酪農家と漁業者が協力して環境保全に取り組むことはなかなか難しい関係のなか、風蓮湖の環境保全という目的を共有し、地域を挙げて様々な事業を実施。

■実践例

風蓮湖の汚染防止のため、風連川流域の農協、漁協、酪農家、漁業者、別海町役場、地元NPOなどで「風蓮湖流入河川連絡協議会」を平成16年に設立し、植樹活動やどんぐり苗畑の造成、風連湖の現状を確認する船上視察などの取組を毎年実施しています。



(植樹会)



(どんぐり教室)



(風連湖の船上視察)

＜事例 9 / 地域団体等の取組＞
大沼国際ワークキャンプ

【環境保全活動】【環境教育】

■取組の特色・概要

- ヨーロッパやアジアなど世界中から集まる若者が、寝食を共にし、地域住民と共に大沼の環境保全に取り組む環境保全のボランティア活動。
- 環境保全活動を通じて、国際交流を行い、町づくりにもつながっている。

■実践例

○地元の地域団体が中心となって、漁師、農家、飲食店、観光関係者などの地元住民や学校、学生などの様々な人々と連携し、森林・生態系保全、湖の浄化、ゴミ拾い等を実施。

○日本国際ワークキャンプセンターと協力し、インターネットなどを通じて世界各国に参加を呼びかけ、15か国以上の若者が参加。カヌーに乗っての大型ごみの除去や周辺道路のごみ拾い、外来種の雑草駆除など、大沼の水質改善や流域の環境整備に取り組む。また、小中学生を対象に参加者の国についてのワークショップを行うなど、地域の国際交流の場ともなっている。

○10年にわたる継続した国際交流を兼ねた保全活動の結果、地域全体に活動が浸透し、活動の意味や成果を伝え続けることで地域の海外ボランティアに対する受け入れ体制も変化。

○ボランティアにとっても、大沼での環境保全という共通目的を共有し、言葉や経験の壁を越えて活動することで自身の自信と相手への思いやりが育てられた。

＜一般社団法人北海道国際交流センター*のHPアドレス＞

「<http://www.hif.or.jp/>」

*北海道において人と人との交流を通じ、世界の生活文化の理解を深め、国際相互理解教育の推進と世界の平和に貢献することを目的として設立した団体。大沼国際ワークキャンプでは、世界各国の若者と地元団体をつなぐ事務局を担っている。



(カーボンファイバーによる水質浄化作業)



(ヨシ筏の作成による水質浄化作業)



(海岸のごみ清掃)



(小学校での国際交流)



(森林作業による流域整備)

<事例10／市民活動団体等の取組> 【環境教育】【意欲の増進】【協働取組】
さっぽろ環境かるた「よくな～るかるた」の製作と実践

■取組の特色・概要

○札幌市の環境について楽しく学ぶことができるよう、(一社)札幌消費者協会、札幌市立大学と札幌スリムネット(ごみ減量実践活動ネットワーク)の3者が連携して製作。
 ○気軽に楽しく取り組むことができ、様々な主体が様々な場での実践が可能。

■「よくな～るかるた」とは

- ・札幌市の環境について学べるオリジナルかるた。
- ・ごみを減らすための4Rを中心に、省エネ、節電、節水といったエコ生活を送る方法や環境に対する取組を紹介。

■「よくな～るかるた」の特長

- ・親しみやすいイラストや、わかりやすい表現で、子どもから大人まで楽しめる内容。
- ・絵札は表が文字有りと言裏が文字無しの2タイプで遊べる。
- ・通常サイズに加え、はがきサイズの中型、A4サイズの大型(ラミネート加工)があり、体育館や屋外(芝生、雪上等)でも使用可能。
- ・家庭、学校、児童会館、町内会、環境イベントなどの様々な場で誰もが気軽に楽しめる。
- ・読み札の裏に詳しい説明があり、札幌の環境を学べる。



<よくな～るかるたHPアドレス(さっぽろスリムネット*HP)> (大型サイズのかるたで実践)

「<http://www.slim-net.org/index.html>」 ※事例11の買い物ゲームも左記HPアドレス

*市民・事業者・札幌市が連携し、ごみ減量につながる具体的な活動を展開することを目的に設立した団体。

<事例11／市民活動団体等の取組> 【環境教育】【意欲の増進】
買い物ゲームの製作とゲームの実施

■取組の特色・概要

○(一社)札幌消費者協会がゲームに使用する模擬店のツールを製作し、さっぽろスリムネットの環境教育事業として受託、実施。
 ○ゲームとして買い物を疑似体験することで、普段ごみとしている中にも資源となるものがあることや、ごみ処理に多くのエネルギーや費用が必要なことを理解し、商品の購入時から環境に負荷を掛けない選択を心掛けてもらう。

■「買い物ゲーム」とは

- ・低学年用の「おやつ」と高学年用の「カレー」の2タイプがあり、模擬店の食材などを古布でリアルに製作。
- ・ゲームの手順：①模擬店でグループごとに予算内でカレーの材料(またはおやつ)と飲料を買う。②おつりをもらう。③ごみの数や処理費を計算し、おつりでごみ処理費を払う。④おつりが多く残った(ごみ処理費が少ない)グループが勝ち。



(カレータイプによる実践)

＜事例12／市民活動団体等の取組＞

【意欲の増進】

北海道自然体験活動指導者交流ミーティング

■取組の特色・概要

○NPO法人などで構成する自然体験活動推進協議会が、環境教育や自然体験活動に取り組んでいる指導者などが集い、情報交換やスキルアップの分科会を含むミーティングを毎年開催。

○ベテランだけでなく学生も運営に協力でき、若者の学習の場ともなっている。

■実践例（平成25年度ミーティング）

・会場：北海道教育大学 幌内自然体験学習研究施設（三笠市内）

・日程：10月（1泊2日）

・対象：自然体験活動の指導者や自然体験活動に興味のある一般・学生

1日目（土曜日）	2日目（日曜日）
13:00～14:00 開会式	8:00～9:00 朝食
14:00～16:00 分科会1（①アイスブレイク ②クラフト③雨を楽しむプログラム）	9:00～11:00 分科会2（①子どものための安全登山②火の使い方③川の知識）
16:00～18:00 休憩・夕食	11:00～12:00 昼食
18:00～21:00 情報交換会	12:00～14:00 分科会3（①身近な病気や怪我のケア②フラインク③動物の観察を考える）
*分科会は選択制のスキルアップ講座・実習	14:00～15:00 ふりかえり



（雨を楽しむ活動についてのワークショップ）

（公園を活用した外遊び企画の事例検討）

（川での自然体験活動中の危険箇所の見極め方研修）

○NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター（<http://nesc.naturum.ne.jp>）が事務局となり、年1回開催されている。現在は、学生時代にこのミーティングの参加者だった世代が運営責任者となって企画・実施している。

○参加者は、情報交換やスキルアップを目指すプロをはじめ、自然体験活動に興味を持つ若者まで幅広い。自然体験活動や安全管理、教育方法などの体験的な講座を中心に企画されている。講師も、プロのガイドのほか、大学教授、自然学校の指導者など多彩で、毎回実行委員を募り「学びたいことを学ぶ」という方針で企画運営されている。

<事例13/地域団体等の取組>

【環境教育】【協働取組】

うらほろスタイル「ふるさとづくり計画」の取組

■取組の特色・概要

○町、教育委員会と学校、町民などが連携し協議会を設立し、子どもたちの「気づき」による成長を元に地域が一体となった持続可能な協働の仕組みを目指して「地域への愛着を育む事業」「子どもの思い実現事業」「農村つながり体験事業」の3つのプロジェクトを実施。

■実践例

1. 地域への愛着を育む事業

○学校が中心となり総合学習等の時間を活用して展開。小学校から中学校までの間に保護者、地域、関係団体の協力の下、町内バスツアーや講演、討論、生産者訪問、販売体験、昔体験などの様々な体験活動を通じ、子どもたちが主体的に地域への愛着を生む取組。締めくくりとして自分たちでまちを活性化させる企画を考え、行政や地域の方々の前で発表を実施。



(中学生による「うらほろ活性化案」発表会)

2. 子どもの思い実現事業

○子どもたちから提案された企画を地域の大人たちでしっかりと受け止め、企画の実現に向け、官民一体となり努力。
○新しい遊具の導入や地元食材を活用した弁当、新キャラクターの誕生など、提案が実を結び、大きな成果を上げるとともに、大人たちの意識の共有と地域内のつながりの創出につながっている。



(子どもの思い実現ワークショップ)

3. 農村つながり体験事業

○地域の農林漁家で1泊2日の民泊体験を行い、食べ物を生産する営みの大切さ、感謝や思いやりの心、産地に生まれたことへの自身と誇りの育成を目指す。
○「食べ物への感謝の気持ち」「生産者の思い」を更に深めるため、地元食材を使った調理実習や民泊受入家庭を招いての「ありがとうの会」など民泊体験後の事後学習を実施。



(民泊体験における農作業の体験)

<うらほろスタイル「ふるさとづくり計画」のHPアドレス>

「<http://www.urahoro-style.jp/>」

＜事例14／中間支援組織の取組＞

【協働取組】【意欲の増進】

「環境中間支援会議・北海道」の設立と実践

■取組の特色・概要

○国、道、市、民がそれぞれ設置する中間支援組織（環境省北海道環境パートナーシップ、公益財団法人・北海道環境財団、札幌市環境プラザ、認定NPO法人・北海道市民環境ネットワークきたネット）が共同事業体を設立。それぞれの強みを発揮しながら事業を運営することで業務重複による無駄が省かれ、効率的な中間支援機能を展開している。

■実践例

1. 環境情報発信の一元化「環境☆ナビ北海道」の運用

○環境保全活動に取り組む方や、環境について知りたい・活動したい方が、有用な情報にアクセスするためのポータルサイトとして、4組織がそれぞれで扱ってきた行事や公募情報などを統合し、「環境☆ナビ北海道」として情報発信を実施。その他、各種の助成金説明会やセミナーなどを協働で実施。



(R i o + 2 0 報告会)

2. 人材育成のための情報発信『もうひとつの北海道環境白書』の出版

○北海道の環境の変化と取組を振り返り、これからを考えるため、様々なネットワークを持つ4組織で役割分担して、北海道の環境を見つめてきたキーパーソンのヒアリングを中心にした書籍を助成金を活用し出版、有償頒布。



(出版された白書)

3. 大学と中間支援組織の連携・協働による人材育成

○都市や地域の再検討、自然との共生、エネルギーの選択など、分野を横断して熟議し、行動していかなければならない課題が山積する環境関連問題に対応するため、大学の大きな使命である人材育成で協働した実践活動を展開。「もうひとつの北海道環境白書」の編集を通じた一連の作業を学生の研究テーマとするなどの連携を図り、育成理論や知識だけでなく、人脈や現場感、実行力を兼ね備えた人材育成を推進しています。



(北海道大学との連携調印式)

＜「環境☆ナビ北海道」のHPアドレス＞

「<http://enavi-hokkaido.net/>」



(白書の企画会議)

<事例15／市町村の取組>

【協働取組】

市民の企画提案による協働のまちづくり事業（旭川市）

■取組の特色・概要

○市と協働で行う事業の企画提案を市民から募集し、市と団体が役割分担し、「協定」を結んで事業を行う。

■事業枠組みのポイント

①募集時点から提案型

○市民の視点から、公共的課題の解決や地域の活性化につながる協働事業を募集し、企画を提案してもらう。テーマが自由な市民提案型、課題・テーマを設定して具体的な事業の企画・提案を募集する行政提案型の区分で実施。



（公開プレゼンテーション）

②審査時点も公開

○団体が提案した事業内容等について、公開の場で説明してもらい、外部委員と市職員で構成する審査委員会が審査し、市が審査結果を受けて事業決定。



（ウチダザリガニの防除活動）

③協定を締結して事業を実施

○提案団体と市の担当課とが、より効果的な事業となるよう、内容や役割分担を協議して事業計画書と収支算書を作成し、協定を締結して事業を実施。



（バイオマス・間伐体験）

④事業報告も公開

○公開による事業報告会を開催し、提案団体と市の合同で実施内容や成果を報告。公開報告会や実施報告書等により審査委員会が事業の成果等について評価を行います。

■平成24年度の採択事業の協働例（市民提案型）

事業名	提案団体の役割	市の役割
「身近な森のバイオマス」循環体感事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークショップ（薪割り、チェーンソー入門など）の企画・運営 ○フォーラムの企画・運営 ○講師・講演の依頼 ○チラシ・ポスターの制作 	<ul style="list-style-type: none"> ○参加申込みの受付 ○周知、広報、報道依頼 ○ワークショップ、フォーラム開催時の人的支援
特定外来生物ウチダザリガニの被害調査及び防除活動事業	<ul style="list-style-type: none"> ○特定外来生物ウチダザリガニの防除活動 ○防除後のウチダザリガニの処分 ○外来生物に対する普及啓発活動 ○学習会の企画・運営・活動のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ウチダザリガニ捕獲に関する行政的支援（国の防除確認取得） ○河川管理者との調整 ○市有施設の使用許可及び使用料の減免 ○防除活動に対する人的支援

*他にも「旭川oh!ビレッジプロジェクト」「旭川子ども観光通信員2012」等、様々な分野の事業を協働により実施。

<協働のまちづくり事業のHPアドレス（旭川市市民生活部市民活動課のHP）>

「<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/shiminkatsudo/>」

<事例16／市町村の取組>

【環境教育】

環境まちづくりリーダー制度とエコキッズ・プログラム(札幌市西区)

■取組の特色・概要

○区民一人一人が環境に配慮したまちづくりを進めていくため、町内会、学校、企業、NPO法人などが連携して「地球に優しいまちづくりを進める西区民会議」を設け、子ども向けの環境活動や地球温暖化防止策の普及など、活動テーマに分かれ（企画部会、こども・自然環境部会、エコライフ・リサイクル部会、広報部会）、環境にやさしい生活を進めるために必要な具体的な手法を検討し、企画・実施。

■実践例（こども・自然環境部会）

1. 環境まちづくりリーダー制度

○区内で行われる環境・自然体験学習に関する活動の担い手としてのボランティア指導者の養成事業を実施。
○地元学や地域の川での水生生物観察などの地域に根ざした講習内容と、環境教育等促進法における認定事業であるプロジェクトWETやWILD等の講習を実施し、年末には「西区子ども環境広場」での指導実習の場も設けている。



(プロジェクト・ラーニング・ツリーのアクティビティ「木のライフサイクル」実習)

○養成事業開始から4年が経過し約40名がリーダーとして認定されており、「エコキッズ・プログラム」での指導補助の他、「西区子ども自然学校」等、西区独自の自然体験プログラムの指導も担当し、環境教育に関する人材の育成とその活用、子どもたちへの機会の提供を一貫して実施している。



(救命講習)

2. エコキッズ・プログラム

○希望する幼稚園や保育園、小学校等へ講師を派遣し、自然に親しみながら環境について学ぶプログラムを実施。

○例年、約20の園・学校が利用し、事業件数は30件、延べ参加者数は2,000名を超える。

【西区で実践している環境教育プログラムの実践例】

- ・ 琴似発寒川等での「水生生物観察」 ・ 園や学校の室内でのプロジェクトWETやWILD等
- ・ 区内の公園でのネイチャーゲーム等を用いた自然体験、観察 ・ 羽釜でのご飯炊き



(自然観察会)
ネイチャーゲーム
「森の色あわせ」



(水生生物観察会)
チューブに乗って水中観察

<地球に優しいまちづくりを進める西区民会議のHPアドレス(札幌市西区HP)>

「<http://www.city.sapporo.jp/nishi/machizukuri/nishikuminkaigi/top.html>」

**<事例17/市町村の取組> 【環境保全活動】【環境教育】【協働取組】
ハサンベツ里山20年計画とふるさと体験教育（栗山町）**

■取組の特色・概要

○地域資源であるハサンベツ里山や雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス、自然体験プログラムを活用して「ふるさと教育」を推進するとともに、教育委員会や学校、NPO法人等が連携した制度設計に町を挙げて取り組んでいる。

■実践例

1. ハサンベツ里山づくり

○環境省の支援を受けハサンベツ地区の離農跡地などを町が購入するとともに、町民が主体となり「里山20年計画」を策定し、実行委員会を設立。官民協働の取組として定着。

【取組のポイント】

- ①単なる自然復元でなく川や海、森と里山の「つながり」を意識
 - ・魚道整備や蛇行させた自然河川などの自然復元の取組
 - ・田端の整備、炭焼き、水車づくりなど様々な環境整備
- ②体験型環境教育の拠点としての活用
 - ・町民の寄付による森の拡充と機械器具の整備により拠点整備
 - ・理科授業での活用、水辺の生き物調査、田植えや稲刈り収穫体験など、学校教育や社会教育の両面からの自然体験の取組
 - ・5～11月の第2日曜日をハサンベツ里山の日とし町民が活動参加



（上：ハサンベツ地区全景）（下：ハサンベツでの田植え体験）

2. 閉校した小学校の再生（雨煙別小学校 コカ・コーラ環境ハウスとして再生）

○廃校となった小学校を環境教育の体験学習宿泊施設として再活用。地域住民主体のNPO、公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団、栗山町で3者協定を締結し取組を実施。

【取組のポイント】

- ①主体の役割分担（地域住民：廃材等の整理、外壁塗装など。財団：改修費用の支援、施設運営ノウハウの提供。町：主催事業等での活用、ふるさと教育の拠点として位置付け）
- ②施設で活用する環境教育プログラムを開発し、持続可能な産業化への第一歩として、有償サービスとして提供。
- ③自然関係団体が発展的に組織したNPO法人が運営を受託し、指導機能の確立を目指すとともに、「環境教育のまちづくり」に向け、川の指導者養成講習会等のボランティア育成も実施。



（上：雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス）（下：夕張川下り）

3. ふるさと教育の取組

○これまでの「自然体験学習」を学校教育も社会教育も幼児も高齢者も家庭も地域も、全てを含めて「ふるさと教育」と位置付け、ふるさと栗山を大切にする人材育成を実施。
○学校への様々な支援を実施（社会科・理科副読本の作成、ふるさと教育のプログラムや学習指導計画事例の作成、教育委員会のコンシェルジュ機能）

<くりやま自然情報サイトHPアドレス（栗山町教育委員会HP）>

「<http://www.town.kuriyama.hokkaido.jp/furusato/index.html>」

＜事例18／青少年教育施設の取組＞

【環境教育】

ネイパル・アース・キッズ

■取組の特色・概要

○青少年教育施設を拠点として、地域の活動団体や指導者と連携しながら、小学校高学年から中学生を対象に、地域特性を生かした体験型プログラムをシリーズで開催。子どもたちの新たな課題に対応する体験活動プログラムを開発・展開。

■実践例（道立厚岸少年自然の家のプログラムデザイン）

1. 海編（6月、1泊2日）

1日目（土曜日）	2日目（日曜日）
10:30～11:00 開会式	6:30～ 7:30 清掃
11:00～12:00 仲間作り	7:30～ 9:00 朝食・点検
12:00～13:00 昼食	9:00～11:00 活動のまとめと交流
13:00～17:30 海から環境を考える	11:30～12:00 閉会式
17:30～19:00 夕食・自由	*海から環境を考える：北海道大学等の協力の下、①実習船での海洋実習②自然史博物館見学③海の生物観察④「海を守るため私たちにできること」のプログラムを実践
19:00～20:30 活動のふりかえり	
20:30～22:00 入浴・自由	

2. 湿原・川編（9月、2泊3日）

1日目（土曜日）	2日目（日曜日）	3日目（祝日）
10:30～11:00 開会式	6:30～ 7:30 清掃	6:30～ 7:30 清掃
11:00～12:00 バス移動・昼食	7:30～ 9:30 朝食・バス移動	7:30～ 9:00 朝食・点検
12:00～16:30 湿原が育む命	9:30～15:30 川から自然環境を考えよう	9:00～11:30 まとめ・交流・閉会式
16:30～19:00 バス移動・夕食・自由	15:30～19:00 バス移動・夕食・自由	*湿原が育む命：別寒別牛湿原での自然観察、湿原を守るために出来ること
19:00～20:30 水の惑星、地球を知る	19:00～20:30 活動のふりかえり	*川から自然環境を考えよう：カヌー体験、厚岸水鳥観察館での学習
20:30～22:00 入浴・自由	20:30～22:00 入浴・自由	

3. 森編（10月、1泊2日）

1日目（土曜日）	2日目（日曜日）
10:30～11:00 開会式	6:30～ 7:30 清掃
11:00～13:00 オリエンテーション、昼食・バス移動	7:30～ 9:00 朝食・点検
13:00～16:00 海と森はつながっている？	9:00～11:00 活動のまとめと交流
16:00～17:00 バス移動・休憩	11:00～11:30 閉会式
17:00～20:00 夕食づくり・夕食	*海と森はつながっている？：真竜標茶森林事務所の協力の下、①森の探検②森を守る仕事体験のプログラムを実践
20:00～22:00 入浴・自由	



(海編/活動のまとめ)



(湿原・川編/カヌー体験)



(森編/森を守る仕事体験)